

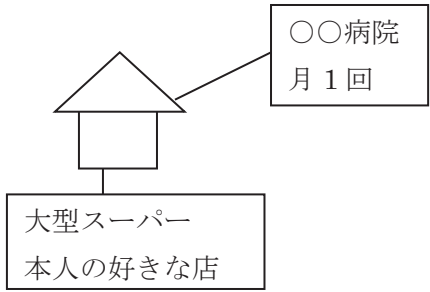
資料編

	ページ	
○ 実態記入表	資-1	
○ 自己紹介カード中学校版（例）	資-3	
生活単元学習指導案 作成のポイント 中学校知的障害特別支援学級の例	資-4	
小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習指導案	資-6	
	国語科学習指導案	資-11
	算数科学習指導案	資-16
中学校 知的障害特別支援学級 作業学習指導案	資-17	
中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 自立活動指導案	資-19	
○ 就学支援の流れ	資-21	
○ 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導における障害の種類及び程度	資-22	
○ 静岡県教科書センター一覧	資-24	

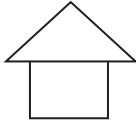
○…肢体不自由・身体虚弱・弱視・難聴の特別支援学級においても参考になる資料

適切な指導・支援を行うために、児童生徒の全体像を把握することが必要です。
 このような項目について情報収集を心掛けるとともに、情報を得たときに忘れないようにメモをしておくといでしょう。個別の教育支援計画、個別の指導計画立案の参考になると思います。

実態記入表

<p>基本情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学4年生 ・父、母、姉 ・自閉症スペクトラム（3歳くらいに診断） ・保護者はことばの発達を促すため、交流及び共同学習の機会を望んでいる。 	<p>学習面・行動面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習・生活する上での困り感 ・ 集中力は5分。 ・ 活動の終わりが分からないため、活動に切り替えが難しい。 ・ 言語が不明瞭であり、自分の意思を伝えられない。 ・ 3年時にも何度か失尿があった。 																																																																																
<p>生育歴</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出生</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>自閉症の診断</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>通園施設</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>母子通園</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>ことばの教室</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>通級</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>幼稚園入園</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>小学校入学</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>学級入級</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			0	3	4	5	6	7	8	出生		○	○	○	○	○	○			自閉症の診断	○	○	○	○	○			通園施設	○	○	○	○	○			母子通園	○	○	○	○	○			ことばの教室	○	○	○	○	○			通級	○	○	○	○	○			幼稚園入園	○	○	○	○	○			小学校入学	○	○	○	○	○			学級入級	○	○	○	○	○
	0	3	4	5	6	7	8																																																																										
出生		○	○	○	○	○	○																																																																										
		自閉症の診断	○	○	○	○	○																																																																										
		通園施設	○	○	○	○	○																																																																										
		母子通園	○	○	○	○	○																																																																										
		ことばの教室	○	○	○	○	○																																																																										
		通級	○	○	○	○	○																																																																										
		幼稚園入園	○	○	○	○	○																																																																										
		小学校入学	○	○	○	○	○																																																																										
		学級入級	○	○	○	○	○																																																																										
<p>生活マップ</p> 	<p>活用可能な資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○病院の心理士 ・ 母方祖父母 ・ ことばの教室の教員 <p>現在の通院時の様子、現在の発達が分かる。</p> <p>入級までの子どもの発達の様子などが分かる。</p>																																																																																
<p>生活リズム表</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>6:30</td> <td>起床</td> </tr> <tr> <td>7:30</td> <td>登校</td> </tr> <tr> <td>15:00</td> <td>下校</td> </tr> <tr> <td></td> <td>母親と買い物</td> </tr> <tr> <td></td> <td>宿題</td> </tr> <tr> <td></td> <td>好きなテレビアニメを見る</td> </tr> <tr> <td>21:00</td> <td>就寝</td> </tr> </tbody> </table>	6:30	起床	7:30	登校	15:00	下校		母親と買い物		宿題		好きなテレビアニメを見る	21:00	就寝	<p>今までの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的であった支援 ・ 文字カードを使って伝える ・ 活動内容や活動の順番が分かるカードを使うと取り組める ○ これだけは行ってはいけないこと（ことば掛け） ・ 突然の日課変更 ○ パニックになってしまった場合の対応 																																																																		
6:30	起床																																																																																
7:30	登校																																																																																
15:00	下校																																																																																
	母親と買い物																																																																																
	宿題																																																																																
	好きなテレビアニメを見る																																																																																
21:00	就寝																																																																																

実態記入表

基本情報	学習面・行動面
生育歴 _____	
生活マップ 	活用可能な資源
生活リズム表 	今までの支援

交流及び共同学習を効果的に行うために、自己紹介カードを交流学級で掲示してもらえると有効です。

自己紹介カード中学校版（例）

ふりがな
名前

誕生日 平成 年 月 日

自分のことを考えることによっ
て自己理解にもなります。

顔写真

好きな食べ物

苦手な食べ物

部活動

好きなスポーツ

中学〇年生になって頑張りたいこと

課題・目標の共有を図ることができます。

自分の長所

自分の短所

みんなへのひと言

- 1 日時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第2校時
- 2 場所 特別支援学級教室
- 3 単元名 「ようこそ1年生のみなさん! 〇〇学級の出
- 4 単元の目標
 - ・新しい友達と世に入学や進級を喜び合い、新年
 - ・…
 - ～略～

単元名は、
『授業の合い言葉になるもの』
『児童生徒の意欲が高まるもの』
『活動が児童生徒に分かりやすいもの』
にしましょう。

【4観点】から、本単元における児童生徒の目標を設定しましょう。

- 5 生徒の実態
 - (1) 学級の実態
 - 1年生〇人、2年生〇人、3年生〇人の合計7人の生徒が在籍する。
 - 1年生については、〇〇学校の入学を機に、支援学級の入級となり…
 - ～略～
 - (2) 個別の実態と目標

生徒名	実態	単元の目標
A (1年)	初めての場所や人に対しては、特に抵抗を感じ、表現(会話・表情)が閉ざしてしまうが、知らせることで対応できつつある。	～略～
(他生徒 略)	度々あった相手を見ようよという声かけによる	
F (3年)	ブルが減ってきた。最上級生としての自覚が芽生え、係活動など率先して行っている。	

(1) 学級の実態と、(2) 個々の実態と単元の目標を設定しましょう。実態があるからこそ、単元で目指す姿がはっきりします。個々の実態は、「～ができない」という否定的な内容でなく、「できつつあること」「少し頑張ればできそうなこと」などを記載するようにしましょう。

- 6 単元構想について
 - (1) 単元名
 - ～略～
 - (2) 単元構想
 - ～略～
 - (3) 単元計画

校内の指導案の形式に沿って項立てしていきますので、「単元設定理由」や「単元構想」などが記載されていきます。大切なことは、『今なぜ、児童生徒に本単元を設定したのか』『どんな力をこの単元を通して付けたいのか』等、根拠や教師の意図(思い)を明確にし、ぶれのない指導を行うようにしましょう。

	学習活動	支援
第1時 (2時間)	新入生のために歓迎会をしよう ・上級生は歓迎会の準備 ※1年生オリエンテーリングへ	・生徒から歓迎会実施の思いが表出されるようにする。昨年度の活動の写真を提示する。役割分担を明確に
第2時 (2時間)	歓迎会をしよう ・歓迎会(調理実習を含む)	
第3時 (3時間)	学級目標をみんなで考えよう ・学級目標の設定 ・掲示物の作成	

活動がどのように展開されていくか、児童生徒の思いから計画を立てましょう。

7 本時の指導 (1 / 7時間)

(1) 本時の目標

～略～

(2) 本時の個別目標

- ・ C…
- ・ D…
- ・ E…
- ・ F…
- ・ G…

(3) 本時の展開 ※1年生は学年オリエンテーリングに参加のため本時は不在。

(1) 本時の目標と、(2) 本時の個別目標を設定しましょう。学習内容によっては、個々の目標が同じ(似ている)児童生徒もあります。授業を振り返り、「あの子は、目標が達成できなかった」と子どもを責めるのではなく、「設定した目標が本当に正しかったのか」と目標のあり方を、常に児童生徒の実態から考えていきましょう。

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇個への支援 ☆評価
<p>去年は、いろいろなことを〇〇学級で取り組んだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会は楽しかったね。 ・今年も、〇〇学級に1年生 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>僕たちが入学したときも歓迎会だから、歓迎会をしてあげよう。歓迎会を開いて、〇〇学級の出</p> </div> <p>歓迎会の日時(時間数)を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことをしてあ ・去年は、どんなことがあったかな? ・クッキングをしたっけね! <p>ビデオを視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌の歌詞をプレゼントしてもらったね。 ・桜の木の下でホットケーキを食べたね。 ・パソコンで説明してくれた学校案内は、よかったね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんな歓迎会にしたらいかな? どんなことをしたらいいかな? 分担も決めないといけないね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の2人が、喜んでくれる会にしたい。 ○1年生も入っての出発式にしたい。 ○今年も、クッキングをして仲良くなりたよ。 ○ゲームもすると仲良くなるよ。 ○1年生に、先輩としてのアドバイスコーナーはどう? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎歓迎会の合い言葉を決めよう ◎内容及びプログラム決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの言葉 ・お楽しみ1(ゲーム) ・お楽しみ2(クッキング) ・先輩メッセージ ・プレゼント贈呈 ・終わりの言葉 <p>◎分担を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合司会 ・はじめの言葉・終わりの言葉を言う係 </div> <p>歓迎会に向けての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いつ・何のために・開催場所・内容・担当者</p> </div> <p>次回、何をするか生単カードに書き込む</p> <p>振り返りカードの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が喜んでくれるよう、秘密(ごく秘)で進めたいです。 ・僕のアイデアが決まったので、うれしかったです! ・総合司会なので、プログラムを暗記したいです。 ・今年も〇〇学級で過ごすのが、楽しみです! 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の思いを一方的に言うFにどんなことが思い出に残っているか、ベスト3形式で発表させる。 ◇新入生の顔写真を提示しながら、今年度の〇〇学級のことにふれていく。 ◇昨年度の歓迎会のビデオを流し、どんな内容だったか想起させる。 ◇2年生のC、Dには、昨年の歓迎会でどんなことがうれしかったのかを視聴するポイントとして伝える。 ◇個々の生徒が画面に登場する都度、視線を生徒に向けて、所属感や充実感を実感させるようにする。 ◇歓迎会のねらいを共有し、進行が得意なGに本時の司会役を依頼する。Gが進めやすいように、ビデオ視聴後の生徒の感想などを板書し、内容や思いを視覚化していく。 ☆G・・・〇〇できたか【評価項目】 ・歓迎会までの日数を示し、その範囲以内で準備ができそうな内容を考えるようアドバイスをする。 ◇自信がもてず分担を決めかねるEには、昨年の担当実績を認め、今年度も同様の担当でもよいことを伝える。 ☆C・・・〇〇できたか【評価項目】 ☆E・・・〇〇できたか【評価項目】 ・黒板に生徒の顔写真を貼りながら担当者を示していく。 ・カレンダーを示し、今後のスケジュールを確認する。 ・次時の内容を生単カードに記入し意欲と見通しをもたせる。 ☆D・・・が〇〇できたか【評価項目】 ☆F・・・が〇〇できたか【評価項目】

個のあらわれを想定して、どんな支援を行うのか、具体的に記載しましょう。

個々の目標に照らし、評価を行いましょう。

1 日時 平成○年○月○日（○）第○校時

2 場所 特別支援学級教室

3 単元名 「作ってあそぼう！ゲームランド」

4 単元の目標

- ・自分が作ったゲームを通して友達や教師、家族と楽しく関わったり、自分や友達の良さに気付いたりする。【関心・意欲・態度】
- ・作って遊ぶ活動の中で、ゲームを改善したり遊び方を工夫したりしようとする。【思考・判断・表現】
- ・ゲームランドにお客さんを招待するために必要な準備や練習を考えたり、実際に行ったりする。【思考・判断・表現】
- ・ポスターや招待状を正しく書いたり、お客さんに分かるようにゲームの遊び方やルールを説明したりする。【技能】【知識・理解】
- ・ゲームランドの準備や自分のゲームコーナーの仕事の手順を理解している。【知識・理解】

5 児童の実態

(1) 学級の実態

本学級には3年女子1人、5年男子2人、女子1人、6年男子1人の計5人が在籍している。学年、興味・関心、障害の特性、発達段階は様々であるが、日々の生活の中で助け合って活動したり、誘い合って遊んだりする姿が見られる。しかし、感情のコントロールが困難だったり、こだわりが強く自己中心的な態度をとったりしてトラブルになることもある。生活単元学習では、友達と関わりながら自分や友達の良さを感じ認め合う姿を願って学習を進めている。

(2) 個別の実態と単元の目標

児童名	実態	単元の目標
A 5年	自分のことだけでなく、休んでいる友達の係の仕事に気付き進んで行くなど、学級全体のことを考える姿が増えてきた。自分から発言することは少ない。制作では、やることが分かれば丁寧に作ろうとする。	○自分の作ったゲームや友達のゲームの遊び方やルールが分かって一緒に楽しんだり、自分や友達の頑張りを言葉で発表したりすることができる。【関心・意欲・態度】 ◎自分が作るゲームの遊び方やルールを考えたり、お客さんを招待するために必要な準備を考えたりすることができる。【思考・判断・表現】 ○PR用のポスター、看板、招待状を作ったり、ゲームコーナーの説明をしたりすることができる。【技能】【知識・理解】
B 5年	本年度より転入してきた。特別支援学級の生活に慣れ落ち着いて生活できるようになってきた。指示では視覚的な支援が有効で、活動に見通しがもてると集中して取り組むことができる。時々気持ちが落ち着かないと暴言が出ることもある。細かい作業が得意である。	◎自分や友達のゲームで仲良く遊んだり、自分や友達の良さに気付いたりすることができる。【関心・意欲・態度】 ○より楽しく遊べるように、教師や友達の意見を取り入れながらゲームを工夫したり、お客さんを招待するために必要な準備を考えたりすることができる。【思考・判断・表現】 ○相手に自分の作ったゲームの遊び方やルールを分かりやすく説明することができる。【知識・理解】【技能】

C 3年	やることを理解し、取り掛かるまでに時間が掛かることがあるが、最後まできっちりと同じように活動することができる。不器用で制作活動は苦手だが、丁寧に取り組もうとする。	○教師や友達と楽しんでゲーム作りをすることができる。【関心・意欲・態度】 ◎自分の作ったゲームの遊び方をお客さんに説明することができる。【知識・理解】【技能】 ○ゲームランドを開くための準備が分かって、自分の役割を果たすことができる【思考・判断・表現】【知識・理解】
---------	---	---

(以下 略)

6 単元について

(1) 単元設定の理由

新年度が始まり、生活単元学習では、「お誕生日会をしよう」「夏野菜を植えよう」「五校交流会へGO！」の学習に取り組んできた。会に向けての準備や苗植えは、子どもたちにとっては楽しいことへの準備であり、前向きな気持ちで取り組むことができた。しかし、3つの単元とも決められた内容の活動であった。新年度の生活や学級のメンバーにも慣れてきたこの時期に、自分たちで考えたり、友達と協力したりして取り組む学習を取り入れたいと考えた。

そこで、6、7月の単元は「作ってあそぼう！ゲームランド」を設定した。一人一人が、自分で選んだり考えたりしたゲームを手作りし、みんなで遊ぶゲームランドを開く。遊びながら改良していく活動を通して、より良くしようとする態度や思考力を養いたい。自分で作ったゲームで友達と楽しく遊び満足感を味わうとともに、友達のゲームの良さを感じ「〇〇さんの～がおもしろい」というプラスの言葉がたくさん出るようにしたい。友達の言葉でさらに自分の頑張りに気付き、自己肯定感を高めることができる考える。

学級で遊ぶ中で、子どもたちはもっといろいろな人と一緒に遊びたいという思いをもつだろう。そこで、教師や交流学級の友達、家族を招待する活動につなげていく。ゲームランドにお客さんを招待して一緒に遊ぶというゴールに向かって必要なことを考え分担して、みんなで準備を進めていきたい。そして、お客さんに楽しんでもらいゲームランドを成功させることで成就感を味わわせたい。

(2) 単元構想

本単元では、まず、身近にある材料でゲームを作り、自分で遊んだり学級の友達と遊んだりする。遊びながらより楽しめる工夫をしたり、遊び方やルールを考えたりする。そして、教師や家族を招待してゲームランドを開くという活動に発展させる。

第一次では、教師が提示した魚釣りゲームを楽しみ、自分も楽しいゲームを作りたいという気持ちをもたせる。そして、一人一人が作りたいゲームを作り、教室を「ゲームランド」として遊ぼうと投げ掛ける。数日前から、作って遊べるゲームの本を教室に並べて興味関心を高めておき、できるだけ自分で作るものを決められるようにする。また、「単元カレンダー」を用意し、ゲームを完成させ遊ぶ(学級だけでのゲームランド開催)までの見通しをもたせることで、期待感を高めるとともに、材料や道具を考え計画的に作っていきけるようにする。

第二次では、「作る→遊ぶ→作る」という活動を繰り返す。市販の本を見ただけでは作ることが難しい児童には、「作り方」の手順表を渡すようにするなど、全員ができるだけ自力で作れるようにする。自分や学級の友達と遊ぶ中で、うまくいくように試行錯誤したり、より楽しく遊べるような遊び方やルールを工夫したりする活動にも取り組ませたい。作ったらすぐ遊び、遊ぶ中で気付いたことをすぐに直せるように、遊ぶ場所と作る場所を決めておく。また、それぞれのゲームについて、初めは担任がほめることを繰り返すことで、徐々に子ども同士でほめ合えるようにしたい。「〇〇さんの～がおもしろい。」「上手にできたね。」といったプラスの評価が出たときは取り上げ全体に広げる。友達から肯定的な言葉もらえることで、自分の頑張りがや良さに気付くことを願っている。友達の良さを見付ける活動は相手を大事する気持ちをもつことにもつながるだろう。

ゲームランドで遊ぶ中で、もっと多くの友達や教師と遊びたいという気持ちが高まるものとする。そこで、いろいろな人をゲームランドに招待することを提案する。そして、第三次で、お客さんを招待するための準備を行う。誰と遊びたいかを話し合い、いつも世話になっている教師、交流学級の友達、家族を招待するようにしたい。準備として何をしなければならないかを考え、PR用のポスターを作った

り、招待状を書いたりして準備を進めたい。ゲームは自分の思いで作ってきたが、ゲームランドの準備はみんなで仕事を分担し協力して進めていきたいと思う。

第4次では、お客さんを招待してゲームランドを開く。自分の作ったゲームの説明をしたり、一緒に遊んだりすることで多くの人と関わらせたい。頑張ってきたことをいろいろな人に見てもらい認められる経験を積むことができるだろう。そして、みんなで準備を進めてきたゲームランドが成功することで成就感を味わわせたい。

(3) 単元計画

時	学習活動 児童の思い	○支援 ・留意点 ☆評価
第一次 1	<p>魚つりゲームをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚つりゲームをする。 <p>つれたよ。おもしろい！ ぼくも作ってみたいよ。もっと遊びたいよ。 みんなでゲームを作ってゲームランドを開こう。</p> <p>作ってあそぼう！ゲームランド</p>	<ul style="list-style-type: none"> 魚つりゲームを用意し、一人一人やってみて楽しむようにする。 ○ゲームには、ルールがあることを知らせ、ルールをカードに書いてははっきりと示す。 ☆友達と仲良く遊び、楽しかったことを話すことができる。【関・意・態】 作ったもので遊ぶことを知らせ、次時につなげる。
2 3	<p>作るものを決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 手作りゲームなどの本を見て作りたいゲームを決める。 材料と道具を考える。 <p>何を作ろうかな。 何が必要かな。</p> <p>計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 作ったゲームでみんなで遊ぶことを知る。 作る計画を立てる。 <p>早く作りたいな。 できたら、みんなで遊びたいな。 楽しそうだよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろなゲームの中から好きな物を選ぶように本や写真を用意しておく。(図書の支援員に依頼しておく) ・単元前に、教室に本を用意しておき、興味を持てるようにしておく。 ・できるだけ自分で決められるようにする。 ○ワッペンを用意しておき、自分の決めたものがはっきり分かるようにする。 ○「単元カレンダー」を用意し、学習の流れを視覚的に示し、見通しをもって活動できるようにする。 ☆自分が作るものを決め、材料を発表することができる。【関・意・態】【思・判・表】
第二次 4 5 6	<p>ゲームを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 見本や「作り方」の本、手順表等を見ながら、遊ぶものを作る。 作ったもので遊ぶ。 遊ぶためのルールを考える。 「作る→遊ぶ→作る」を繰り返す。 上手に作ったり楽しく遊んだりするための工夫を考え、改良する。 <p>出来上がりが楽しみ。上手にできるよ。 うまいかないぞ。どうしたらいいのかな。 遊ぶと楽しいよ。 ○○さんのゲームがおもしろいよ。 ルールを決めるよ。 もっとおもしろくしたいな。～したらどう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○できるだけ一人で作業が進められるように、それぞれの実態に応じた手順表や見本を用意する。 A: 本から作り方の部分を拡大コピーしたもの B: イラスト入りの手順表 C: 手順表と見本の実物 (D, E 略) ○材料や道具を個々のかごに用意しておく。 ・1時間ずつ個々のめあてをもたせ、制作の活動に入る。 ・制作する場所と遊ぶ場所を決めておく。作ったらず遊び、遊びながら気付いたことを改良していけるようにする。 ・画用紙や廃材などは、置く場所を決めておく。 ・作っている時や遊んでいる時の写真を撮り、振り返りの際紹介する。

	7 8	<p>ゲームランド開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人のゲームコーナーを順にまわり遊ぶ。 ・友達に遊び方やルールを説明する。 ・自分や友達の良いところ(工夫)を見付ける。 <p>楽しいね。 ○○さんのゲームもおもしろいね。 △△さんと一緒に遊びたいな。□□先生やおうちの人にも来てほしいよ。</p> <p>ゲームランドにお客さんを招待しよう!</p>	<p>○実態に応じて改善したことや考えたルールなどをカードなどに書いておくよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作過程でも友達と遊ぶことはあるが、第7、8時では全員で楽しむようにする。遊び方やルールを説明する際には、制作時に書いたカードなどを活用させる。 ☆自分や友達のゲームの良いところ(工夫)や頑張りを見付けることができる。【関・意・態】 ☆ゲームを改良したり遊び方を工夫したりしようとする事ができる。【思・判・表】
第三次	9 10 11 12 13	<p>お客さんに来てもらう準備をしよう</p> <p>お客さんには遊び方を説明してあげなきゃいけないね。 ほかにはどんなことが必要な。分担を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰を招待するか相談する。 ・招待状やポスターを作る。 ・遊び方やルールの説明の仕方を考え、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・招待する人を相談して決める。 ○担任がお客さん役になり、動作化をしながら必要なことや物に気付けるようにする。 ○見通しをもって準備を進められるよう、単元カレンダーと役割分担表を用意する。BとCにはやることのリストを用意する。 ☆お客さんを招待して遊ぶために準備することを考え発表する。【思・判・表】 ☆ポスターや招待状を正しく書くことができる。【技】【知・理】 ☆自分のやること(分担された仕事やゲームの説明)が分かり、友達と協力して準備や練習をすることができる。【思・判・表】【知・理】
第四次	14 15 16	<p>ようこそ、ゲームランドへ 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達などお客さんを招待してゲームランドを開く。(交流学級の友達は昼休み、家族は参観日を利用する。) ・自分のゲームコーナーの運営を行う。 <p>がんばるよ。 上手にできたよ。がんばったよ。</p> <p>ゲームランドで頑張ったことを書こう</p> <p>おもしろいゲームを作ることができたよ。 大きな声で遊び方の説明ができたよ。 友達と協力して準備できたよ。 お客さんが楽しんでくれてうれしかった。 ゲームランドは大成功だ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の仕事をいつでも確認できるように役割分担表を掲示しておく。 ○自分でコーナーを運営できるよう、手順カード等を準備したり、場の設定を工夫したりする。 ・参加する教師には、児童個々の目標や工夫を伝えておく。 ・感想メモ用紙を用意し参加者から感想をもらい、自己評価に活かす。 ・交流学級の担任にも協力を依頼し、安全に遊べるようにする。 ☆お客さんに分かるようにゲームの説明ができる。【技】 ☆お客さんと楽しく関わってゲームコーナーを運営することができる。【関・意・態】 ・ゲームランドの写真やビデオを見て、振り返りをする。 ☆ゲームランドの仕事や楽しかったことなどを表現することができる。【知・理】

7 本時の指導 (14/16 時間)

(1) 本時の目標

- ・ゲームランドで、お客さん(教師)に楽しんでもらえるように、自分が作ったゲームの遊び方やルールを説明し、ゲームコーナーを運営することができる。

(2) 本時の個別目標

A	「たこつり」コーナー	自分からお客さんに声を掛けゲームの遊び方を説明したり、お客さんからの質問に答えたりすることができる。
---	------------	--

B	「ポールたおしサッカー」コーナー	ゲームの遊び方やルールを、手本を示しながら説明することができる。
C	「くるくるシャトル」コーナー	せりふカードを見ながら大きな声でゲームの遊び方を説明することができる。

(以下 略)

(3) 本時の展開

	学習活動・児童の思い	・指導上の留意点 ○支援 ☆評価
つかむ	<p>1 本時の内容とめあてを確認する。</p> <p>・今日は、いよいよお客さんが来るよ。 ・ぼくが招待した先生が来るかな。うれしいな。 ・一緒に遊べるよ。楽しみだよ。</p> <p>(楽しく遊ぶために) お客さんに分かりやすいように遊び方を話そう。</p> <p>・ぼくは遊び方を順序よく言うよ。 ・私は大きな声で話すよ。 ・得点を間違えないように気を付けるよ。</p>	<p>・指導上の留意点 ○支援 ☆評価</p> <p>・本時の内容を単元カレンダーで確認し、流れと予定時間を示す。 ・楽しく遊ぶためには、お客さんに分かるように遊び方やルールを話すことが大切であることを確認する。 ○子どもたち自身が自分のめあてを明確にできるよう、顔写真をはったホワイトボードに目標を書く。 ○自分でめあてをたてられそうなAやBは指名して発言させる。ほかの児童にはこれまで練習してきたことを思い出して発表できるように支援する。 ○それぞれに話す内容を書いたせりふカードを準備し(第3次で生単や国語の時間に作成しておく。)、忘れた時には、見てもよいようにする。 ・担任はそれぞれのコーナーを回り良い表れを写真に撮ったりメモしたりする。 ・お客さんの教師には、子どもたちの説明を聞いてから、遊びに参加してもらうよう伝えておく。また、それぞれの目標や工夫を知らせておく。 ○Cが自分から声を掛けられないときは、担任がそばで励ましたり、Cが来てほしいと思っている教師に近くに来てもらったりする。 ・お客さんの教師には、感想用紙を渡しておき、児童に分かりやすいメッセージを書いてもらうようにする。 ・もらった感想用紙をそれぞれのホワイトボードにはり、視覚的に頑張りが見えるようにする。</p>
考える	<p>2 ゲームランド開始。 教師をお客さんとして、自分のゲームコーナーを運営する。</p> <p>・「〇〇のところへ来てください。」お客さんを呼びこむ。 ・遊び方を話すよ。「これは、～して遊びます。」 ①ここから、～します。②投げます。③得点は〇となります。」 ・ルールを教える。「〇回できます。」「ここから投げます。」 ・一緒に遊んで、楽しいよ。 ・結果を伝える。「〇点です。」「勝ちです。」 ・ちゃんと話さないと分からないんだね。めあてに気を付けて話したら、分かってくれたよ。</p>	<p>☆A、B・・・各自のめあてに沿ってお客さんに説明することができたか。【技】 ☆C・・・自分からお客さんに声を掛けたり、せりふカードを見ながら大きな声でゲームの説明をしたりしようとしたか。【関・意・態】</p>
深める	<p>3、活動の様子を振り返る。</p> <p>頑張ったところはどこだろう。見付けよう。</p> <p>・恥ずかしかったけど、お話できたよ。 ・ゲームの説明を頑張ったよ。「分かったよ」って言ってくれたよ。うれしかったよ。 ・一緒に遊んで楽しかったよ。もっといろいろな人来てほしいよ。 ・お客さんたちが喜んでくれたよ。楽しかったよ。</p>	<p>(D、E 略)</p> <p>・テレビに写真を映し、自分や友達の様子を振り返るようにする。 ・写真やお客さんからの感想用紙を手掛かりにして自己評価させる。特にめあてについての部分を取り上げる。 ・担任は個々に良かったところを評価する。</p>
見つめる		

- 1 日 時 平成○年○月○日（○曜日） 第○校時
- 2 場 所 特別支援学級教室
- 3 単元名 収穫祭の招待状を書こう！
- 4 単元の目標
- ・相手や目的に合わせて、収穫祭の招待状を書こうとしている。 【関心・意欲・態度】
 - ・基本的な手紙の形式を理解し、収穫祭の招待状を書くことができる。 【書くこと】
 - ・収穫祭の招待状を、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 児童の実態と単元設定の理由

(1) 学級の様子から「読むこと」「書くこと」の必要性について

本学級には1年生1人（A）、2年生1人（B）、3年生1人（C）、4年生1人（D）の合計4人が在籍している。生活経験の差が大きく、興味・関心や言葉、数に対する認知にも差が見られるが、比較的穏やかな性格の児童が多く、それぞれのペースで学習を進めることができる。

児童の表れには差が見られるものの、国語の「読むこと」「書くこと」の力が必要であると感ずる。Bは話すことが得意だが、ひらがなの理解は10文字程度であるため、読む活動や書く活動になると、意欲が低下する。Cはこれまで学年相応の学習を行ってきたが、内容の大体を理解するには教師の支援が必要である。活用できる語彙が少なく、型にはまった言い方で話すことが多い。自分の気持ちや文面にない思いを読み取る学習は、苦手である。

BとCのやりとりを見ていると、話すことが得意に見えるBの話はその場の内容とずれていて、Bの言いたいことがCには理解できていないことが多い。CとDは自分の立場で話すため、話がかみ合わない。こうしたやりとりから、状況に合わせて語彙を柔軟に使い、自分の思いを表出したり、相手の心情を理解したりすることが、難しいとわかった。この表れから、「①会話ができても、語彙のイメージの共有につながっているとは言えない。②相手の言ったことを記憶に留め、それを踏まえて自分の思いを表出することができない。③5W1Hの要素の位置付けが難しい」ということを感じた。

これらのことから、「読むこと」「書くこと」の弱さが、コミュニケーションの妨げになり、トラブルの要因になっているのではないかと考えた。そこで、「読むこと」「書くこと」の学習を通して語彙を豊かにさせたいと考えた。体験の中で語彙を豊かにすることによって、自分の気持ちを伝えたり、友達と気持ちのずれを読み取ったりする力を高め、自分たちで問題を解決する力につなげていきたい。この力が支援学級や交流学級での生活に広がり、自分のよさが充分発揮されてくることを願う。さらには、相手を意識して書く学習の充実がコミュニケーションの力を高め、自立した生活を送る上での生きづらさを軽減し、生き生きとした将来につながると考えた。

本単元では、収穫祭を行うための招待状を作成する。単元の導入に当たる第1時では、収穫祭の計画を教師とともに立て、5W1Hを中心に収穫祭の案内として伝える内容を確認する。第2時では、招待状を書くための役割を分担する。第3時から招待状を作成する。手紙を出したりもらったり経験をもとに、手紙の書き方を学習するCやDには、これまでの学習をいかしてお礼の気持ちや俳句などを入れることによって、相手を意識した表現を工夫させたい。ひらがなを学習中のAやBには、収穫祭の日時や場所など大切なことを知らせるという目的を達成するためであることを強調し、丁寧に字を書く意識を高めたい。それぞれが作成したものを招待状に仕上げ、互いの学習を価値付けていきたい。

(2) 「読むこと」「書くこと」における実態

児童	実 態	取り組んでいる支援
<p>A 1年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなやカタカナを読むことができる。 ・濁音の読み書きができる。 ・促音や拗音は、読み書きはたどたどしく、表記はできない。 ・字形をとることが難しい。 ・絵や写真の表情を見て、「うれしそう」「かなしそう」などの感情を読み取ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援（実物・写真・イラスト）を入れながら、文字や言葉の習得をしている。 ・マスのノートを使用。 ・促音や拗音などについては、音と言葉の数が合うように繰り返し練習している。
<p>B 2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなは、10文字程度は読める。（あ・い・う・え・お・ま・し・き・か・さ） ・カタカナは全く読み書きできない。 ・「こくご」など、言葉のまとまりは分かるが、「こくごのこは？」と聞いても答えることができない。 ・字形がだいぶ整ってきた。 ・自分の考えを話すことは得意だが、友達とのやり取りでは、話がかみ合わないことから、話の内容を正しく理解できていないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援（実物・写真・イラスト）を入れながら、文字や言葉の習得をしている。 ・一文字ずつではなく、Bの生活に必要な言葉を取り上げ、言葉のまとまりでひらがなを練習している。 ・マッチングや仲間分けの教材を使用し、操作活動を取り入れている。
<p>C 3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年相応の物語や説明文の大体を読み取ることができる。 ・学年相応の文章を読むには、教師の支援が必要である。 ・3年生の漢字を練習しているが、定着は難しい。 ・書き順を忘れやすい。 ・実物など見ればそのものの名前を答えることはできるが、言葉による説明では難しい。 ・言葉通りに読み取るため、言葉に含まれている気持ちや願いなどは伝わらない。 ・活用できる言葉や会話のレパートリーが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ形式で進めることが安心して学習することになるため、ドリル教材で漢字を練習している。 ・スリーヒントクイズなどで、言葉の活用を図っている。 ・生活場面や経験したことから、文脈の意味や表現方法を練習している。
<p>D 4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年相応の物語や説明文を教師と読むことで、内容を理解することができる。 ・4年生の漢字を練習しているが、定着は難しい。 ・書き順を忘れやすい。 ・物の名前や様子を表す言葉などはいろいろ知っているが、「話す」「書く」場面では、思い出せず活用が難しい。 ・文面にはない言葉を使ったり気持ちを読み取ったりすることが難しい。 ・否定的な表現はよく知っているが、肯定的な表現はどんな時に使えばいいのかわからないため、日常で使うことが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ形式で進めることで安心して学習することができるため、ドリル教材で漢字を練習している。 ・生活場面や経験したことから、文脈の意味や表現方法を練習している。 ・4コマ漫画など、絵の様子から、イメージをもって、言葉の活用が図れるようにしている。

(3) 単元構想

学習活動						
☆4月からの流れ☆						
国語						
A	B	C		D		
運筆の練習	言葉書き 絵やイラストと文字のつながり 形の識別 運筆の練習	文	漢字	文	漢字	
簡単なひらがな		物語の続きを想像して書こう	2年生の読み	3年生の読み	考えや意見をまとめる	3年生の読み
母音や簡単なひらがな		発見ノート	3年生の漢字	随筆	推薦文	4年生の読み
清音・濁音・半濁音		大事なことをまとめる				
促音		組み立てメモ			敬意を表す言い方	
長音		俳句に親しむ			心を見せる言葉	
主語と述語の関係 句点・句読点						

生活単元学習 その1

4/18 夏野菜植え
 トマト・ミニトマト・キュウリ・ナス
 ピーマン・オクラ・まくわ・スイカ・カボチャ

5月 タマネギの収穫
茶つき

6月 梅・プラムの収穫
受粉 植物の成長

理科

ジャガイモ掘り大会
 6/2 きらり商店初収穫！
 6月～9月頃
 きらり商店夏野菜販売
 6/10 **収穫祭の計画を立てよう！**

お世話になった方々への招待状を書こう！《4》

みんなで協力して招待状を完成させようね！（本時も含む）

A

ふんを書けるよ！やさいなまえをいれてかかぬ。

B

やさいなまえがかいてあればえらべるよ。まねしてかかぬ。

自分力を発揮しよう！！

C

俳句を習ったから、来てほしい気持ちを俳句にするね。

D

敬語に使い方を知ったよ。みんな年上の人だから敬語を入れた文を書かぬ。

完成！やった～

学習したことの価値づけ（振り返り）

みんなで力を合わせて作れたね。早く届けに行きたいね。

国語で勉強したことが、役に立ってうれしいな。

社会

野菜の産地
スーパーマーケット
トの仕組み

算数

お金
苗代・野菜の値段決め
きらり商店の売上金額
買い物体験

長さ
苗を植える間隔
苗の伸び・高さ

重さ
給食で使用する重さの計測 一個当たりの重さ

計算
袋詰め（10のかたまり・かけ算・わり算）

生活

自然とのふれあい
四季の変化

☆夏休み前までの流れ☆

A	B	C	D
拗音・拗長音の練習 簡単な文作り（絵日記）	ひらがなの練習 物と言葉合わせ	文作り（4文以上） 漢字	文作り（120字） 漢字

生活単元学習 その2

6/24 招待状を届けに行こう！
 7/25 収穫祭の準備 買い物
 7/27 収穫祭

6 本時の指導（4 / 4）

(1) 全体の目標

・収穫祭の案内として伝えたいことを明らかにしながら、丁寧な言葉を使って招待状を書くことができる。（書くこと）

(2) 個別の目標

	目 標	手 立 て
A	促音や拗音などの表記に気をつけて、主語、述語に加え、「～を」といった目的語を入れた文を書くことができる。 1. 2年【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】イ(カ)	○書きたいことのイメージを明確にもてるよう、写真を提示する。 ○主語と述語の関係を表したワークシートを用意する。
B	写真やイラストカードと文字カードを照らし合わせて選び、文字を書くことができる。 1. 2年【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】イ(ア)	○収穫祭のイメージがもてるよう写真を提示する。 ○写真やイラストと一致する文字カードを選択し、手本とすることによって、書字への抵抗を軽くする。
C	夏の季語を使い、俳句のリズム感を感じながら表現することができる。 3. 4年【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】イ(オ)	○季語（夏）をたくさん見つけたシートを用意する。 ○俳句のリズムがわかるワークシートを用意する。 ○畑での活動を振り返り、具体的な言葉で表現できるよう、畑で活動したときの写真を提示する。
D	来てくださる方々との交流を思い浮かべながら、心情を表す言葉を入れた文章を書くことができる。 →来てくださる方にお礼の気持ちを伝えるという目的を意識して、お世話になったことを具体的な事柄を入れて、文章を書くことができる。 3. 4年【書くこと】ウ	○心情を表す言葉シートを参考資料として用意する。 ○ワークシートを用意する。 ○100字の用紙を用意する。 ○招待する方の写真を提示する。

(3) 本時の展開

【形態】	・留意点など	☆学習活動			
		全体支援□ 個別の支援○ 個別の評価◆ 準備物◎			
		A	B	C	D
【全体】	・授業の始めに授業の流れや内容について確認をする。	□授業内容を提示して見通しをもたせる。			

		<p>「チャレンジ」の時間は、収穫祭の招待状作りです！一人一人が国語の時間で勉強していることを出し合おう！</p>			
<p>【個人】</p>	<p>・4つのコマに分けて授業を進める。</p> <p>①音読…約3分 ②チャレンジ…約5分 （教師と一緒に） ③パワーアップ…約5～10分 ④お楽しみ…約10分</p> <p>・①③は自分で進めていける内容にする。ドリルやプリントなどの時もある。 ・②は、本時間で特に身につけさせたい学習内容のため、必ず教師が順番に周り、支援や評価を行う。 ・一人一人の流れをずらすことにより、②の時間を確保する。</p>	<p>音読 【自分学び】 ☆教科書P44～49</p> <p>チャレンジ ☆写真を基にして、主語と述語を入れた文を書く。 ☆主語と述語の間に入れる「～を」の部分を書き込めるワークシートを使い、進めていく。 ○渡す相手を意識して書くよう声をかける。 ◆主語・述語・目的語が入った文を書くことができる。 【言語についての知識・理解・技能】 （ワークシート）</p> <p>パワーアップ 【自分学び】 ☆促音カードで言葉の学習</p>	<p>音読 【教師と一緒に】 ☆教科書1年（上）P24～25</p> <p>パワーアップ 【自分学び】 ☆言葉と絵のマッチング</p> <p>チャレンジ ☆育てている野菜の写真と文字を組み合わせる。 ☆見本の文字カードを見ながら、ひらがなを書く。 ○育ててきた野菜の写真を用意し、文字がイメージとして残るようにする。 ◆見本の文字カードを見ながら、写真に合う文字を書くことができる。 【言語についての知識・理解・技能】 （ワークシート）</p>	<p>音読 【自分学び】 ☆教科書P60～67</p> <p>ドリル 漢字の読み書き 【自分学び】</p> <p>チャレンジ ☆俳句や季語について前時までの学習内容を振り返る。 ○野菜作りで取り組んできたことを写真などで確認し、言葉とつなげる。 ☆俳句のリズムに気を付けて、俳句をつくる。 ◆夏の季語が入った俳句を作ることができる。 【言語についての知識・理解・技能】 （ワークシート）</p>	<p>音読 【自分学び】 ☆教科書P100～103</p> <p>ドリル 漢字の読み書き 【自分学び】</p> <p>チャレンジ ☆前時までの学習内容を振り返る。 ☆招待状で書く内容をワークシートに書く。 ○心情を表す言葉シートを示す。 ○読み返す時間を設け、文の構成を意識させる。 ◆心情を表す言葉を入れた文を書くことができる。 【書く能力】 （ワークシート）</p>
<p>【少人数】 【個人】</p>	<p>・学習を振り返り、今後の意欲づけを図る。</p> <p>・お楽しみは、学習内容に沿ったものにする。</p>	<p>これで招待状が出せるね。収穫祭が楽しみだね。</p>			
		<p>お楽しみタイム きらり農園編 しんけんすいじやくゲーム</p>	<p>パワーアップ 【自分学び】 ☆自分の俳句をパソコンで打つ。</p>	<p>パワーアップ 【自分学び】 ☆自分の文章をパソコンで打つ。</p>	

授業像 まわりの人やものとの関わりを広げ、進んで活動できる児童を育てる。

1. 教科名 課題別学習 「数と計算」
2. 本時の目標「自分の学習スケジュールに従って自主的に学習を進め、数の表し方や計算の仕方を理解することができる。」 ※〔 〕内は小学校学習指導要領
 - ・4年A児 3けた÷1けたの筆算の仕方を理解することができる。〔4年A(3)ア〕
 - ・4年B児 3けた÷1けたの筆算を正しく計算することができる。〔4年A(3)イ〕
 - ・4年C児 2けた÷1けたの筆算を正しく計算することができる。〔4年A(3)イ〕
 - ・5年D児 3けた÷1けたの筆算を正しく計算することができる。〔4年A(3)イ〕
 - ・5年E児 概数を用いて、買い物の合計金額を見積もることができる。〔4年A(2)ウ〕
 - ・5年F児 3けた÷1けたの筆算を正しく計算することができる。〔4年A(3)イ〕
 - ・5年G児 数の相対的な大きさを捉えてお金を数え、1億より小さい数を正しく表すことができる。〔3年A(1)ウ〕
3. 本時の展開 (①～④は①<聴く・書く・話す> ②<間> ③<単元構想> ④<出番>)

		・学習課題 ◇教師の支援、留意点 ◎評価						
重点課題		*授業のはじめに、児童一人一人の重点課題(学習内容・学習態度)を確認する。…③						
		B児	E児	A児	F児	G児	C児	D児
15分	<p>パソコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト「ランドセル3年生」を使用する。 ◇パソコンが他の児童の刺激とならないよう机の向きや音量に配慮する。 ◎自分に必要と思われる課題を選択して学習することができる。 	<p>数・計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3桁÷1桁の筆算 ◇手順表 ◇「ひく」の手順を忘れないよう声をかける。…④ ◎たてる、かける、ひく、おろすの手順に従って計算することができる。 ・2桁÷1桁の筆算 			<p>1億より小さい数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3桁÷1桁の筆算(◇手順表) ◎自分の力で正しく計算することができる。 	<p>1億より小さい数</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇位取り表 ◇空位には0を書くこと確認する…④ ◎お金を数え、金額を正しく書き表すことができる。 ・2桁÷1桁の筆算 	<p>トランプかけ算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを2枚とり、出た数の積を求め、積が大きい人がカードをもらう。 ◇電卓 ◎筆算をした後電卓を使ったりして正しく積を求めることができる。 	
	<p>数・計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3桁÷1桁の筆算 ◇手順表 ◇「ひく」の手順を忘れないこと、また、おろす数を書く位置に注意する。…④ ◎自分の力で正しく計算することができる。 ・2桁÷1桁の筆算 	<p>お金の両替</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇お金の具体物 ・3つの品物の合計金額を、概数を用いて考える。 ◎品物を1000円で買うことができるか正しく判断することができる。 	<p>トランプかけ算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを2枚とり、出た数の積を求め、積が大きい人がカードをもらう。 ◇電卓 ◎筆算をした後電卓を使ったりして正しく積を求めることができる。 		<p>◎筆算を使って正しく積を求めることができる。</p>	<p>パソコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト「ランドセル3年生」を使用する。 ◇パソコンが他の児童の刺激とならないよう机の向きや音量に配慮する。 ◎自分に必要と思われる課題を選択して学習することができる。 		
15分	<p>トランプかけ算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを2枚とり、出た数の積を求め、積が大きい人がカードをもらう。 ◎筆算を使って正しく積を求めることができる。 	<p>電卓</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎筆算をした後電卓を使ったりして、正しく積を求めることができる。 	<p>パソコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト「ランドセル3年生」を使用する。 ◇F児とG児は、教え合ったり、協力して解いたりすることができるので、2人で1つのパソコンを使用させる。…② ◇パソコンが他の児童の刺激とならないよう机の向きや音量に配慮する。 ◎自分に必要と思われる課題を選択して学習することができる。 		<p>数・計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3桁÷1桁 ・2桁÷1桁の筆算(◇九九表) ◎自分の力で正しく計算することができる。 		<p>1億より小さい数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3桁÷1桁 ◇ストップウォッチで時間を計り、前回と比べて振り返る。 ◎自分の力で正しく計算することができる。 	

◇新しいことへの抵抗が強いので、付き添いながら丁寧に見ていく。…④

- 1 日時 平成○年○月○日 (○) 第○校時
 2 場所 特別支援学級教室
 3 単元名 「牛乳パックではがきを作ろう」
 4 単元の目標

- ・進んで準備から片付けまでの作業に励み、「自分たちの仕事」という自覚をもちながら主体的に作業に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】
- ・より完成度の高いはがきを作るため、自分なりに「こうしたらこうなるだろう」と予測しながら慎重に作業に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】
- ・作業の手順や約束事を守り、安全面に気を付けて作業をすることができる。 【思考・判断・表現】
- ・なめらかなはがきを作るために、紙すきの仕方、道具の使い方を工夫することができる。 【技能】
- ・水とパルプの配分、作業工程が分かる。 【知識・理解】

5 生徒の実態

(1) 集団の実態

1年生が3人、2年生が2人、合計5人のグループである。2年生については、昨年度、農耕と手指の巧緻性を高めるための基礎作業を毎週2時間継続してきた。生徒は作業のやり方を理解したり、見通しをもてたりすると、進んで準備や片付け、作業を行うことができる。慣れてくると慎重さに欠け、失敗することもあるが、やり方や目的を確認すると直すことができる。

(2) 個別の実態と単元目標 (B、C、Dは省略)

生徒	実態	単元目標
A (2年)	負けることや失敗することがあると落ち込んでしまうことがある。手先は器用で慎重に作業を進めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・均等に紙をすくことを目指し、進んで作業に取り組むことができる。 ・均等な紙をすくための注意点を意識し、すく方法を工夫することができる。
E (1年)	手先の細かい作業は好きだが、不注意で失敗することが多い。手順が理解できるまで何度も教師に確認を求めることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの工程を覚え、手順表で工程を確認しながら自分で作業を進めることができる。 ・むらやかすれがないようにスタンプを打つことができる。

6 単元について

(1) 単元設定の理由

これまでの作業学習で、生徒は個人目標を意識して作業量を増やし、作業効率を高めることを目指してきた。そんな生徒たちに「形」として自分の成長を実感させたいことから「ものづくり」という視点で作業学習を始めることにした。牛乳パックを使ったはがき作りは、個々の感性や作業の丁寧さ、工夫が生きる活動であると考えた。

(2) 単元構想

この単元の導入では、卒業生が紙すき体験をした写真や、すいたはがきを見る。やりたいという意欲を引き出すとともに、牛乳パックが紙に再利用できることを知る機会とする。紙すきに興味をもったところで、作り方を調べていく。調べた方法で、全員が全工程を体験しながらはがきを作っていく。その後、他校の作業の様子を見学し作業環境や改良点などを話し合い、自分たちの作業に反映させていく。

(3) 単元計画

	学習活動	支援
一次(1)	はがきの作り方を調べてみよう	卒業生が紙すき体験をしたときの写真や生徒がすいた作品を用意する。
二次(7)	牛乳パックを使ってはがきを作ろう	作業時間を短く区切ったり、手先の器用な生徒が手本を見せる場を設けたりする。
三次(7)	より良いはがき作りをめざそう	はがき作りを行っている他校の見学をすることで改良点を学ぶ。作業工程や製品の流れに合わせて作業場所を配置し、製造過程やお互いの様子を見合いながら作業ができるようにする。

7 本時の指導 (12/15 時)

(1) 本時の目標

自分の課題や目標を意識し、作業を行うことによって、今までよりも精度の高いはぎを作ることができる。

(2) 本時の個別目標

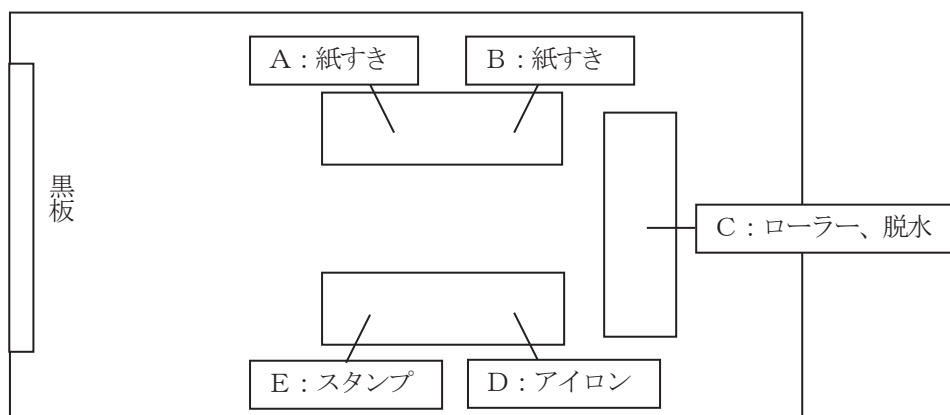
A…補助線を目印に、厚さが均等になることを確かめながら作業を進めることができる。

E…手順表で工程と注意点を確認しながら作業を進めることができる。(B、C、Dは省略)

(3) 本時の活動

学習活動	・生徒の活動 ○支援 ☆評価					指導上の留意事項
	A	B	C	D	E	
1 目標の共有	作業日誌に本時の目標を記入し発表する。					<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に作業目標や予定表を貼り、単元全体の見通しをもてるようにする。 ・始めに行う分の材料を事前に準備しておく。 ・パルプの準備は教員が行う。 ・タイマーをセットしておき、鳴ったら作業を終わる合図とする。
2 道具、材料の準備	・紙すきの準備をする。	○写真入りの手順表を準備。	・アイロンの準備をする。	○写真入りの手順表を準備。		
3 作業	<ul style="list-style-type: none"> ・パルプを 100g ずつすき枠に4回入れ、4mmの厚さにする。 ○1枚目に規定の量が入れているか確認する。うまくできていないときは、示範をする。2枚目以降は声を掛けないようにする。 ○枠の4mmの厚さの所に線を引いたものを使用する。 ・すいた紙を網で傷つけないように紙床に置く。 ☆平らにすくことができたか。(製品) ☆落ちていて最後まで取り組むことができたか。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱水機とローラー掛けを行う。 ○集中がなくなる3枚目が終わったら報告するようにする。 ○しわが入ったときはローラーの操作を確認する。 ☆しわのないようにつくることができたか。(製品) ☆一つ一つの作業に集中することができたか。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・左手に手袋をはめる。アイロンを人に向けない。アイロンは立てておく等の確認をしてから取りかかる。 ○しわになるときは10数えながらゆっくり動かすようにする。 ☆紙が反らないようにゆっくりとアイロンを動かすことができたか。(観察) ☆相手に聞こえる声ではっきりと報告することができたか。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宛名用と差出人用の枠のスタンプを押す。 ・インクのむらがないように5回練習してから本物に取りかかる。 ○同じ位置にスタンプできるように型紙を用意する。 ☆インクのむらやみ出しがないように押すことができたか。(製品) ☆作業手順表を見て自分から作業をすることができたか。(観察) 		
4 片付け	使用したものを各自、所定の位置へと片付ける。					
5 反省	作業日誌を記入し、それぞれ成果について発表する。					

(4) 配置図



- 1 日時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
- 2 場所 特別支援学級教室
- 3 題材名 お悩み相談室 (1/2)
- 4 題材の目標
 - ・ 「お悩み相談室」のアドバイザー役となり、相談者の困り感に寄り沿って解決方法を考え助言する活動を通して、他者の感情を理解し、適切な聞き方、話し方ができるようにする。
(3人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること)

5 生徒の実態

(1) 学級の実態

本学級には、1年男子1人、2年男子3人の計4人が在籍している。4人とも日常的な会話は成立し、落ち着いていれば指示を理解して行動することができるが、自分の思い通りにならないことや見通しがもてないことがあると感情的になり、言動を自分でコントロールすることが難しくなることがある。また、どの生徒も、場の状況に応じた言動や相手の立場を考えた対応、言葉で自分の気持ちを表すことを苦手としており、相手とのやりとりの中でトラブルを起こすことがある。

(2) 個別の目標

生徒	自立活動における個別の目標
A (1年)	○状況を理解しようとするゆとりをもったり、周囲の状況を観察したりして、進んで課題に参加できる場面を増やす。 ○自分の行動を振り返り、自分が悪かったときには相手に謝罪ができるようにする。
B (2年)	○指示書やワークシートを手掛かりに、活動への見通しをもち、落ち着いて取り組むことができる。 ○場所や場面の状況を理解して、適切に対応できるよう、行動の仕方を身に付ける。
C (2年)	○基本となる体の使い方を習得し、体力の向上を図りながらできることを増やす。 ○相手の立場や考えを理解し、感情をコントロールして適切に対応できるようにする。
D (2年)	○興奮したときの感情の調整の仕方が分かり、自分でコントロールしようとする場面を増やす。 ○場所や場面の状況を理解して、適切に関わることができるよう、会話や行動の仕方を身に付ける。 ○生活に般化できるよう、自分の生活と結び付けて行動の仕方を考えることができる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

人とのコミュニケーションや他者の感情を理解することが苦手な生徒たちが、Eさん(T2)の悩み事相談にのる活動において、相手の立場や感情を考えながら、どのように話を聞いたり言葉を掛けたりするとよいか学ぶことを通して、相手の話を共感的に聞き、相手の立場に立った適切な言葉掛けができるようにしたい。

(2) 本時の個別目標

A	・アドバイスのポイントを見て、アドバイスする際どんな言葉を言えばよいかを自分で考えることができる。
B	・ロールプレイでは、相手をよく見てうなずきながら話を聞くことができる。 ・アドバイスのポイントの意味を理解し、自分で話し方を修正することができる。
C	・ロールプレイでは、相手の言葉に応じてあったか言葉を使うことができる。 ・友達の良い視点に気付き、認めほめることができる。
D	・ロールプレイでは、相手の話を最後まで聞いてから、あったか言葉を使ってアドバイスをすることができる。 ・言われてうれしかった言葉など、自分の生活を振り返って発表することができる。

(3) 本時の展開

予想される生徒の学習活動と教師の支援 (○)・評価 (☆) 留意点 (・)

1 **ロールプレイを見てみよう。(課題提示)**

Eさんの相談

わたしは、学校に行くときいつも忘れ物をしたり、遅刻をしてしまったりします。
早起きするのですが、テレビを見ながらご飯を食べていると、夢中になってしまいます。どんな服を着ていこうか迷ってなかなか決まらないのです。それに、家を出て5分くらい歩くと忘れ物に気付いて、家に戻ることが多いのです。どうしたら遅刻をせず、忘れ物もなくせるか、相談に乗ってください。

Eさんが「やってみよう」と思えるような解決方法をアドバイスしよう。

2 **どんな解決方法があるか考えて、ワークシートに書こう。**

「朝テレビを見なければいいと思う。」
「着る服を決めておくようにする。」
「持ち物を予定帳に書いておけばいい。」
☆相手の悩みに寄り添った解決方法を考えたか。
(ワークシート・表情)

○押さえた言葉をフラッシュカードで提示し、意識できるようにする。

(1) **聞く** うなずく 視線
静かに

(2) **助言する** 短く
分かりやすく

(3) **キーワード**
あったか言葉
ポジティブワード
リフレーミング

3 **アドバイスのポイントをもとに、どのような聞き方、話し方でアドバイスするとよいか考えよう。(スキルの教示)**

<アドバイスのポイント>

- ① 相談者の話を、最後までよく聞く。
→うなずいて共感する・相談者の顔をしっかり見る・静かに聞く
- ② 相談者が困っていることについて短く、分かりやすく助言する。
→必要のない話や自分の話はしない
- ③ 相談者が元気になれるようなアドバイスをする。
→あったか言葉 (例：～してみるといいと思います)・リフレーミング (例：～はできているので、～もできると思います)・ポジティブワード (例：きょううまくいくと思います)
- ④ 自分の意見をおし付けない。
→「よかったら 参考にしてください。」と伝える。

朝はテレビを見ないで朝食を食べればいい。

洋服は、たんすの上から順番にとって着るといい。

時間割は、前の日にそろえておくといい。

予定帳をしっかり書けば、忘れ物をしない。

4 **ロールプレイをしよう。**

- ・ アドバイザー役、相談者 (Eさん) 役を生徒同士で交代しながら行う。自分が何をやるか分かるように、役割を分担し、アドバイザーと相談者はそれぞれ所定の席に座るようにする。
進行……T1 アドバイザー・相談者補助……T2
- ・ 始めと終わりが分かるように合図の言葉を掛け、終了時には拍手をして話しやすい雰囲気を作る。
 - 良いアドバイスには大きくうなずくなど、共感的な態度を示す。
 - T1は進行しながら、必要に応じてアドバイスのポイントを確認する。T2は、アドバイザー役の生徒それぞれにどんな聞き方、話し方がよかったかを伝える。
- ・ 一人が終わるごとに相談者役の生徒から感想を聞いたり、他の生徒が良かった点を発表したりする場を設ける。(①②③④の観点で相互評価)

5 **アドバイスの仕方について振り返ろう** ①②③④の観点で自己評価させる。

☆適切な聞き方、話し方ができたか。(ロールプレイ時の表情や態度、聞き方や話し方・自己採点の様子)

就学支援の流れ (就学支援の仕組みを把握するとともに、保護者の思いも理解しましょう)

校内にて

- 1 対象児童生徒の実態把握
(別紙障害の種類及び程度を参考)
- 2 校内就学支援委員会の実施

- ・開催月、開催回数は学校ごと。
- ・委員長を学校長とし、管理職を含む校内就学支援委員により対象児童生徒について審議を行う。

- ★特別支援学級で学ぶことが適当であるとする具体的な根拠となる資料を用意しましょう。
- ★校内就学支援委員会の記録は、確実に残しましょう。

市町就学支援委員会の審議へ付すためには、審議を依頼する保護者の同意を得ることが条件となる場合があります。市町教育委員会に御確認ください。

保護者の同意なしに市町就学支援委員会で審議され、結果をいきなり伝えた場合、「なぜそんなことになったのか。」と、学校への不信感を抱く結果となります。

とてもデリケートな内容ですので、日頃の相談から信頼関係を築くことが大切です。

市町教育委員会にて

- 1 学校から挙げられた対象児童生徒の把握等

校内より特別支援学級もしくは特別支援学校で学ぶことが適当であると審議された児童生徒のみが対象。

- 2 市町就学支援委員会の実施

- ・開催月、開催回数は市町ごと。
- ・医師など、専門家を含む市町就学支援委員により、審議を行う。

審議結果を学校に伝える

審議結果が、特別支援学級で学ぶことが適当である場合 (そうではない場合も含め)

就学支援担当者(学級担任も含め)は、審議結果を踏まえ、特別支援学級入級について保護者と面談を行います。

保護者の同意がなければ、入級はできません。

審議結果が、特別支援学校で学ぶことが適当である場合

市町教育委員会担当者及び就学支援担当者(学級担任も含め)は審議結果を踏まえ、特別支援学校転学について保護者と面談を行います。特別支援学校への転学を進めていく場合、市町教育委員会は、保護者の同意を得た上で、県就学支援委員会に、より専門的な審議を依頼します。

ここからは、特別支援学校に転学する児童生徒の就学の仕組みです。

県教育委員会にて

県立の特別支援学校への就学を考えている場合は、県の就学支援委員会の審議が必要となります

- 1 市町教育委員会から審議を依頼された対象児童生徒の専門調査等

- ・年間2回(7・8月、10・11月)実施。
- ・関係機関の職員で構成された専門調査員が対象児童生徒に発達検査等を行い、学校教育法施行令22条の3に規定される障害の程度に関する審議を行う。

- 2 県就学支援委員会の実施

- ・年間2回(8月下旬、11月)実施。
- ・県教育委員会が委嘱した教育学、医学、心理学、その他の障害のある児童生徒の就学に関する専門的知識を有する専門家を含む県就学支援委員により、専門調査の結果等を踏まえ、審議を行う。

審議結果を市町教育委員会に伝える

市町教育委員会から学校に審議結果が伝えられます。市町教育委員会と学校が連携し、県の審議結果を踏まえ再度就学相談を行います。保護者同意のもと、市町教育委員会は認定特別支援学校就学者として決定します。※

※就学先の最終決定は市町教育委員会になります。

特別支援学校、特別支援学級、通級による指導における障害の種類及び程度

(障害の程度に関する規定)

- 1 特別支援学校
学校教育法施行令第22条の3
- 2 特別支援学級
25 文部科学省初等中等教育局長第756号通知（平成25年10月）
- 3 通級による指導
25 文部科学省初等中等教育局長第756号通知（平成25年10月）

区分		障害の程度
視覚障害者／弱視者	視覚障害特別支援学校	両眼の視力がおおむね0・3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
	特別支援学級	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもの
	通級による指導	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度の者で通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの

聴覚障害者／難聴者	聴覚障害特別支援学校	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
	特別支援学級	補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが困難な程度のもの
	通級による指導	補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが困難な程度の者で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの

知的障害者	特別支援学校（知的障害）	一 知的発達が遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもの 二 知的発達遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないものうち、社会生活への適応が著しく困難なもの
	特別支援学級	知的発達遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のも
肢体不自由者	特別支援学校（肢体不自由）	一 肢体不自由者の状態が補装具によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
	特別支援学級	補装具の使用によっても歩行や筆記等日常生活における基本的な動作に軽度の困難がある程度のも
	通級による指導	肢体不自由の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部の特別な指導を必要とする程度のも

病弱者及び病弱者／ 身体虚弱者	特別支援学校 (病弱)	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 二 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
	特別支援学級	一 慢性の呼吸器疾患その他疾患等の状態が持続的又は間欠的に医療又は生活の管理を必要とする程度のもの 二 身体虚弱の状態が持続的に生活の管理を必要とする程度のもの
	通級による指導	病弱又は身体虚弱の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの

言語障害者	特別支援学級	口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達遅れがある者、その他これに準じる者(これらの障害が主として他の障害に起因するものでない者に限る。)で、その程度が著しいもの。
	通級による指導	口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達遅れがある者、その他これに準じる者(これらの障害が主として他の障害に起因するものでない者に限る。)で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの

自閉症・ 情緒障害者	特別支援学級	一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のも 二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のも
情緒 障害者	通級による指導	主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの

自閉 症者	通級による指導	自閉症又はそれに類するもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの
----------	---------	--

学習 障害者	通級による指導	全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもので、一部特別な指導を必要とする程度のもの
-----------	---------	---

注意欠陥 多動性 障害者	通級による指導	年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動的・多動性が認められ、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもので、一部特別な指導を必要とする程度のもの
--------------------	---------	---

静岡県教科書センター一覧

No.	名 称	設置場所	所 在 地〈 電 話 〉	備付図書
1	中央(兼小笠) 教科書センター	静岡県総合 教育センター	〒436-0294 掛川市富部 456 (0537-24-9700)	小・中 高・特
2	賀茂教科書センター	下田市立 中央公民館	〒415-0024 下田市4丁目6-16 (0558-23-3929)	小・中 高・特
3	伊豆教科書センター	伊豆市立 中伊豆図書館	〒410-2592 伊豆市八幡 500-1 (0558-83-5472)	小・中
4	田方教科書センター	三島市立 北中学校	〒411-0033 三島市文教町2丁目 32-60 (055-986-0684)	小・中 高・特
5	駿東教科書センター	裾野市立 鈴木図書館	〒410-1127 裾野市平松 495 (055-992-2342)	小・中
6	沼津教科書センター	沼津市立 図書館	〒410-8533 沼津市三枚橋町9-1 (055-952-1234)	小・中・特
7	富士教科書センター	富士市立 富士中学校	〒416-0907 富士市中島 320 (0545-61-1390)	小・中 高・特
8	富士中央教科書センター	富士市立 中央図書館	〒417-8515 富士市永田北町3-7 (0545-51-4946)	小・中
9	富士宮教科書センター	上野・北山地域 学習センター	〒418-0114 富士宮市下条 141 (0544-58-0256)	小・中
10	静岡清水区 教科書センター	静岡市立清水 中央図書館	〒424-0839 静岡市清水区入江岡町 15-23 (054-354-1331)	小・中・特
11	静岡駿河区 教科書センター	静岡県立 中央図書館	〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1 (054-262-1242)	小・中 高・特
12	静岡葵区教科書センター	静岡市立 中央図書館	〒420-0884 静岡市葵区大岩本町 29-1 (054-247-6711)	小・中
13	志太教科書センター	島田市立 島田図書館	〒427-0022 島田市本通3丁目3-3 (0547-36-7226)	小・中・特
14	榛原教科書センター	吉田町立 図書館	〒421-0303 榛原郡吉田町片岡 404 (0548-33-3434)	小・中・特
15	牧之原教科書センター	牧之原市 相良公民館	〒421-0524 牧之原市須々木 854-10 (0548-52-1021)	小・中
16	周智教科書センター	森町立 図書館	〒437-0215 周智郡森町森 1485 (0538-85-1113)	小・中・特
17	磐田教科書センター	磐田市立 中央図書館	〒438-0086 磐田市見付 3599-5 (0538-32-5254)	小・中・特
18	浜松教科書センター	浜松市 教育センター	〒433-8104 浜松市北区東三方町 143-4 (053-439-3120)	小・中 高・特
19	浜松中央教科書センター	浜松市立 中央図書館	〒430-0947 浜松市中区松城町 214-21 (053-456-0234)	小・中
20	浜松浜北教科書センター	浜松市立 浜北図書館	〒434-0038 浜松市浜北区貴布祢 3000 (053-586-8200)	小・中
21	浜松細江教科書センター	浜松市立 細江図書館	〒431-1305 浜松市北区細江町気賀 4579-1 (053-527-0185)	小・中・特
22	湖西教科書センター	湖西市立 中央図書館	〒431-0441 湖西市吉美 3219-1 (053-576-4351)	小・中・特

* 備付図書の「特」は、特別支援学校及び特別支援学級で使用する一般図書を示す。

* 平成27年度の資料ですので、センターへ行く前に確認をお願いします